

「人間・生活・都市・学」

(北山恒代表)

「都市の環境単位」

今年度は「都市の環境単位」というタイトルで研究を展開しました。これは、都市空間の創られている原理が、制度であったり経済原理という人間の身体を超越した概念によって組み立てられているために、そこには私たちの居場所がないという感覚があるということの問題にしているものです。そのために、どこにいてもどこまで行っても同じような風景となり、特異点のない均質な都市空間を生み出しているのではないかと、そのような現代の都市に用意されている空間のあり方によって、私たちは場所に対する愛着がなくなり土地の帰属意識は喪失し、同時に都市のなかでは共同体の意識は持てなくなったのではないだろうか、と考えているからです。私たちの目の前にある現代都市の拡がりがあるどのような理屈を持って出現しているのか、そしてこの都市には存在していないが人間の生活の場から空間の拡がりを再設定することができないだろうか、という調査とそれに対応する課題を追究しました。

「都市のステーション」

都市生活で必ず発生するなにげない現象のひとつとしてゴミ捨て場に着目し、生活行為を組み込んだステーションを提案する。都市の既存ステーション(コンビニ、バス停、交番等)とのレイヤを重ね、ネットワーク化を通じて都市生活を豊かにしようと考えた。(大庭)

「葉山における環境単位」

葉山において、環境単位を発生させる装置は、道のようなたちをして存在することに着目した。そこで、葉山の旧漁村集落を敷地とし、既存の路地地を利用しながら、新たに道をつくり出すためのプログラム(プログラム)をまち中に配置することを提案する。(諸橋)

「塀のないまち」

まちを眺めると、塀で仕切られた土地の中に否応なく住宅が収められていることに気づく。暗く窮屈な外部空間は、所有という制度の下で生み出された当たり前の風景だ。土地の所有を解放し、塀のないまちを提案する。(佐藤)



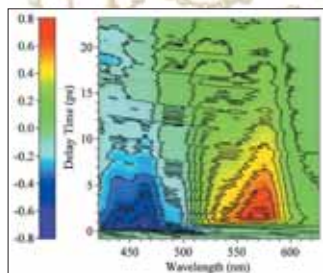
「不自由なルール」

敷地内で完結した生活ではなく、都市にかかわることで場所への帰属感を生むような空間を目指した。都市のルールをデザインすることで、新しい集合形態が見えてくる。たとえば、「庭の連続性」、「敷地の共有」、「隣家との新しい関係」等である。(小杉)

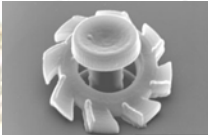
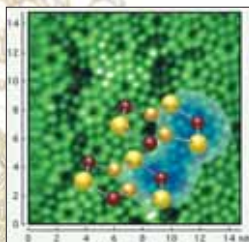
ナノマイクロ制御物質科学: 新規な構造と機能の創成

(大野かおる代表、田中正俊、武田淳副代表)

結晶表面・界面の原子配列、分子配列、電子の局在性を熱と光で制御



実時間イメージング分光法



ナノマイクロ光造形法

ナノ・マイクロ構造の組織化と新規な機能の発現を目指して研究を推進してきました。物質設計グループでは7Beの半減期がC60中で1.7%減少することを発見し、また2電子励起スペクトルの精密計算技術を開発しました。構造制御グループでは、結晶表面・界面の原子配列、分子配列、電子の局在性を熱と光で制御する技術を開発しました。光機能制御グループでは世界初の実時間イメージング分光技術やナノマイクロ光造形法を開発しました。これらの研究成果はSpringer-Verlag社より「Nano-and micromaterials」という題名の本として出版予定です。